7. 図 画 工 作 科 論 文

自ら学び続ける授業の創造Ⅲ

意欲的に自己の表現を追求する図画工作科授業の創造Ⅲ
～造形意欲を高める鑑賞活動の在り方～

Ⅰ　研究の立場……87
　1　本シリーズの研究の歩み……87
　2　本年度の研究の方向……87

Ⅱ　本年度の研究内容……88
　1　造形意欲とは……88
　2　造形意欲を高める鑑賞活動の在り方とは……89
　3　造形意欲を高める鑑賞活動の在り方の具体化……90
　　(1)　造形意欲を高める鑑賞活動の学習内容……90
　　(2)　造形意欲を高める鑑賞活動の指導方法……91

Ⅲ　授業プラン例……93
　1　第６学年「すてきな塔の街」（つくりたいものをつくる）……93
　2　第２学年「まどをあけたら」（つくりたいものをつくる）……95

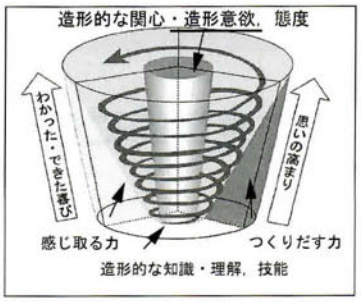
Ⅳ　研究の成果と課題……97
　1　研究の成果……97
　2　研究の課題……97

図－1

Ⅰ　研究の立場

1　本シリーズの研究の歩み

私たちは，前研究において子どもたちが「わかった。」「できた。」と実感を持てる授業を目指し，見るポイントを焦点化し「思いと照らし合わせて見る」ことができるように実践研究を進めてきた。しかし，さらに表現への強い思いとの照らし合わせを目指して，表現活動への意欲を高めていく研究が必要であることが課題となった。



【図１　自己の表現を追求する姿】

そこで，全ての子どもがさらに表現への意欲を高めていけるようにするための研究の必要性から**「意欲的に自己の表現を追求する図画工作科授業の創造」のテーマ**の下に実践研究を行ってきている。１年目には，表現の各活動場面における意欲的に自己の表現を追求する子どもの姿を図１のように明らかにした。また，導入場面に着目し，やって気付く鑑賞活動を設定して，つくりたい思いの明確化や活動の見通しを図ることで，意欲的な表現の展開を目指した。そして，２年目には，表現の場面に着目し，中間鑑賞活動を設定した。そこで，つくりたい思いをさらに明確にできたり，表現課題やその解決方法を発見できたりする学習内容を設定することで，意欲的な表現の推進を目指してきた。

2　本年度の研究の方向

昨年度研究では，表現場面において中間鑑賞活動を設定し，図１の四つの培いたい力を発揮しながら，つくりたい思いを明らかにしたり，表現課題やその解決方法を発見したりすることで，その後の表現を意欲的に進めていく多くの子どもの姿が見られた。しかし，次のような課題も残った。まず，表１のように中間鑑賞活動後の表現場面において，造形意欲を十分に高めることができなかった子どもの姿が少数ではあるが見られたことである。理由は，製作が不十分で，作品を鑑賞し合える状態に至っていなかったために，自分の表現課題や解決方法を十分に発見できぬまま表現活動が進み，結果として意欲が高まらなかったのである。次に，導入で高めた意欲を表現の展開の中でさらに高めていく子どもの姿は見られたが，その造形意欲が終末鑑賞の場面で最終的に下がるという実態が見られたことである。これらの子どもは「友達のよさを見つけられてよかった。」等と鑑賞の時間を有意義であった学習と感じながらも，一方では「鑑賞そのものは楽しくない。」「作品が完成しているので学習はもう終わり。」という気持ちがあることも分かった。

【表１　各場面におけるやる気】

各場面	やる気の平均	やる気の低下率
導入	３．４７	
製作①	３．７９ ↑	５％
中間鑑賞活動	３．８２ ↑	１０％
製作②	３．９２ ↑	**３％**
終末鑑賞	**３．６１ ↓**	**２５％**

（４段階自己評価による）※ 低下率は小数点以下を四捨五入

以上のことを踏まえ，導入場面や表現場面で子どもが自ら表現課題やその解決方法を必要とする時期を見取って鑑賞活動を適時に設定し，造形意欲をさらに高める必要がある。そして，題材終末の鑑賞そのものに一層の楽しさが感じられたり，題材を通しての「やって楽しかった。」「うまくできたぞ。」という楽しさや満足を感じられたりするような鑑賞の必要性も明らかになった。

つまり，**これまで以上に意欲的に自己の表現を追求していくために，造形意欲を高めていけるような鑑賞活動の在り方を研究**していくことにした。

そこで，本年度の研究主題及びサブテーマを次のように設定した。

意欲的に自己の表現を追求する図画工作科授業の創造Ⅲ
～造形意欲を高める鑑賞活動の在り方～

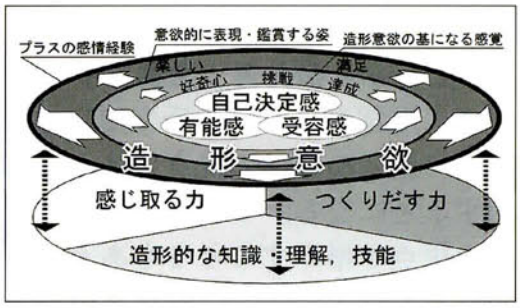
Ⅱ　本年度の研究内容

1　造形意欲とは

図画工作科の学習において**子どもたちが意欲的に自己の表現を追求していくための原動力になるのが，主体的に表現や鑑賞をしようとする造形意欲**である。この造形意欲は，**成功経験や題材の持つ新規性により触発される**ことが，子どもの実態から分かった。例えば，図２のように第３学年の空き箱とペットボトルを組み合わせて町をつくる題材では，前学年の題材で空き箱を組み合わせて動物をつくって「やって楽しかった。」という経験や，今回の題材で空き箱と新材料のペットボトルを組み合わせたり，加工したりして町をつくるという新規性により触発される。これらの要因により**プラスの感情経験が想起されたり，意欲的に表現・鑑賞する姿が表出されたりして，互いに関連し合って働く。**しかし，「ただ楽しい。」等のプラスの感情だけでは，意欲的に表現・鑑賞する姿は，継続しない。プラスの感情経験から「自分はできるんだ。」等の造形意欲の基になる感覚を味わうことにより造形意欲は高まっていく。つまり，これらが図２の矢印のようにプロセスをもって連続的に働くことで，造形意欲は高まり続けることになる。今回の研究では，特に意欲的に表現・鑑賞する姿につながることが考えられる有能感，自己決定感，受容感に絞って関連を探ることにする。特に，図工の導入場面では，動機付けとして参考作品等の現物やそれを提示する行為を示す場合が多い。したがって，意欲が高まるプロセスの中でも，まずは，好奇心を持ってこれらの事象提示を鑑賞している姿を表出させることが大切であると考える。

【図２　造形意欲が高まるプロセス】

また，**造形意欲が高まることで，２年次に研究した四つの培いたい力をより高めていくことになる。**その際，図３のように**造形意欲は，先に述べた高まるプロセス（朱色の部分）をたどり，つくりだす力，感じ取る力，造形的な知識・理解，技能にも双方向に関連しながら高まる**ことになる。



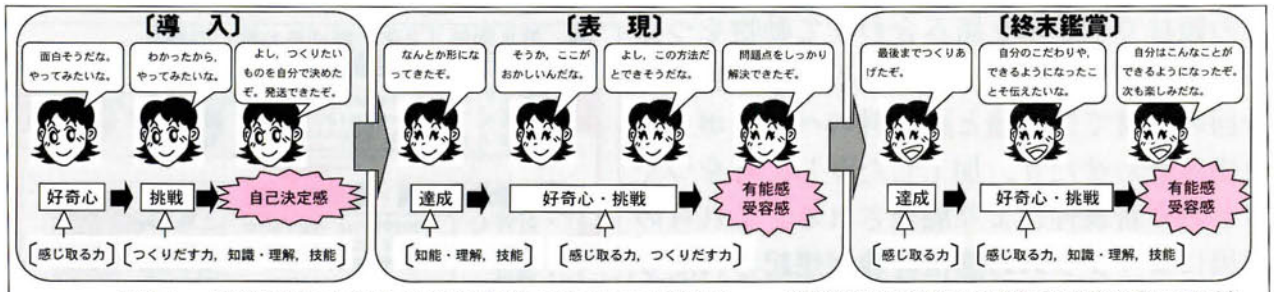
【図３　造形意欲と認知面との関係】

さらに，造形意欲が培いたい力と関連して高まりながら学び続けるには，**学ぶ価値を実感しながら学習していくことが大切**になる。子どもたちは，授業の場で鑑賞を通して友達の見方，考え方，感じ方を交流したり，表現そのものに意味付けを行ったり，これまでの自分の見方，考え方，感じ方を再構築したりして課題解決を行うことで，学ぶ価値を実感することができる。

つまり，**造形意欲とは，意欲的に自己の表現を追求するために，鑑賞を通して造形意欲の基になる感覚が相互に関連し，学ぶ価値を実感しながら高まる原動力**である。

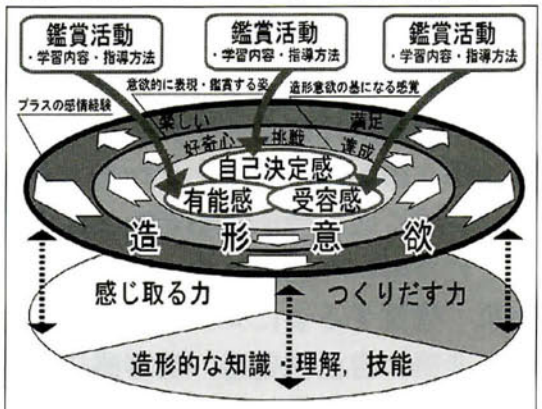
2　造形意欲を高める鑑賞活動の在り方とは

意欲的に自己の表現を追求する子どもは，自分のつくりたい思いと作品を照らし合わせながら見ることで四つの培いたい力を高めて表現活動を展開していく。１年目に明らかにした思いと作品を照らし合わせて見ている子どもの姿に，造形意欲が高まるプロセスを対応させると図４のようになる。このように造形意欲は，表現過程のそれぞれの場面で重点的に働かせたい感覚の喚起や姿の現れにより高まっていくと考えられる。



【図４　学習過程における造形意欲の高まりの様相】　〔造形意欲に関連付いて発揮される主な培いたい力〕

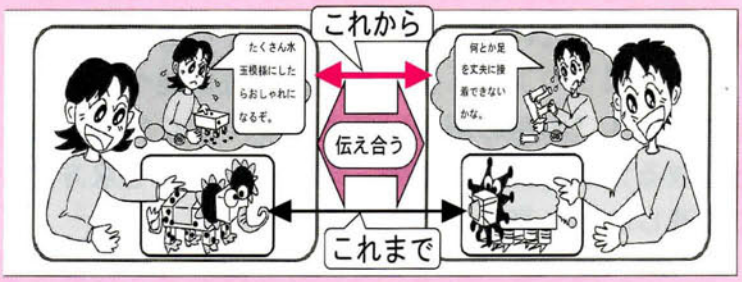
つまり，これらの造形意欲の基になる感覚を喚起し，意欲的に表現する子どもの姿が表出できるような鑑賞活動の学習内容や指導方法を吟味していく必要がある。そこで，図５のように**学習過程で重点化した造形意欲の基になる感覚を喚起できるような鑑賞活動の学習内容を設定し，効果的な指導方法を適用**する。その際，各過程で高めた造形意欲がよりよくつながるためには，題材全体の中で**鑑賞活動を効果的な時期を見極めて設定する**ことが大切となる。



【図５　造形意欲の基になる感覚を喚起する鑑賞活動】

これまでの鑑賞では，お互いの表現のよさを認め合い，完成の喜びを味わってきている。しかし，作品を見ながらの相互鑑賞であるために，作品の出来映えの鑑賞に陥りがちとなり，自分が本当に称賛してほしいこだわって表現した点について，十分には気付いてもらえないという課題もある。

そこで，これからの鑑賞では，図６のように作品の出来映え（黒枠）だけでなく，**学習のねらいの中で自分なりにこだわった表現や表現課題の乗り越え方等（ピンクの吹き出し）を，しっかり伝え合う活動をする**。それによって，作品からだけでは気付かない新たな視点での鑑賞ができ，自分の鑑賞の視点に他者の鑑賞の視点を加え増やすことになる。これは同時に表現の視点を増やすことでもあり，これまで以上に学ぶ価値を実感しながら意欲的に表現しようとする造形意欲の高まりにつながる。また，このことは今回の学習指導要領改訂の視点にもなっている自分なりの意味を増やすことにもつながることである。そこで，**こだわりを伝え合う鑑賞活動の学習内容や指導方法を吟味していく必要**がある。



【図６　こだわりを伝え合う鑑賞活動】

つまり，**造形意欲を高める鑑賞指導の在り方とは，四つの培いたい力を確実に高めるために，こだわりを伝え合う鑑賞活動の学習内容や指導方法を明らかにして設定し，適用していくこと**である。

3　造形意欲を高める鑑賞活動の在り方の具体化

(1)　造形意欲を高める鑑賞活動の学習内容

意欲的に自己の表現を追求する子どもの姿の表出のために，四つの培いたい力を関連しながら高め，造形意欲を高めることを目指して，**鑑賞活動を題材全体に位置付けた。これまでの見て気付く鑑賞活動，やって気付く鑑賞活動，中間鑑賞活動に加えて，本年度は，新たに題材終末鑑賞活動を設定**した。そして，**重点化したい造形意欲の基になる感覚を味わえるように鑑賞活動の学習内容をそれぞれに設定**する。そこで，各鑑賞活動の学習内容の要件については以下のようになる。題材終末鑑賞活動については，重点化した有能感，受容感が感じられるように本年度新たに設定した。(表２)

【表２　各鑑賞活動の学習内容の要件】

見て気付く・やって気付く鑑賞活動	中間鑑賞活動		題材終末鑑賞活動	
	《低学年》	《中・高学年》	《低学年》	《中・高学年》
○期待感 ○見るポイントの気付き ○活動の見通し ○新しい経験 ○工夫の余地 ○試行錯誤できる操作活動 ○題材の価値の実感	○作品への感情移入 ○つくりたいもののイメージの明確化 ○見るポイントの内在 ○友達との学び合い	○作品のアピール ○表現課題の気付きと解決方法の発見 ○見るポイントの内在 ○友達との学び合い	○遊び性（作品になりきったり，遊んだりしながらの紹介） ○表現や作品のよさの称賛 ○友達との学び合い	○遊び性（選んだり探したりする活動） ○作品へのこだわりのアピール ○表現や作品のよさの称賛 ○友達との学び合い

これらの学習内容の要件に基づき造形意欲を高めるような学習内容は，表３の３年生の「風パワー全開」を例にした鑑賞活動のように設定できる。この題材は，「風を受ける帆」「車輪」「車軸」という走る仕組みが学習の核となる，風を受けて走る車をつくる題材である。

【表３　３年生「風パワー全開」での造形意欲を高める各鑑賞活動の学習内容】

造形意欲の基になる感覚　　意欲的に表現・鑑賞する姿

過程	子どもの姿	造形意欲の重点化	各鑑賞活動の学習内容	
導入		自分のつくりたいものを自分で決めることができたという 自己決定感	**【見て気付く鑑賞活動】** 題材を見通せる参考作品の鑑賞と走る仕組みが違う３タイプの車を比較し，好奇心を持って見て仕組みに気付く。 **【やって気付く鑑賞活動】** 車輪がスムーズに動くように仕組みをつくり，試走に挑戦することで車輪の仕組みを理解する。	
表現		友達のアドバイスをもらいながら，表現課題を見付け，解決方法を発見できたという 有能感　受容感	**【中間鑑賞活動】** **「弱風１ｍレース＆ストレート完走挑戦」** 車を走らせる中で，スムーズに走らなかったり，まっすぐに走らなかったりする表現課題に気付き，学び合いにより解決方法を発見する。	
終末鑑賞		友達に表現を認められ，自分はこんなことができるようになったという 有能感　受容感	**【題材終末鑑賞活動】** **「ウインドカーでチャレンジ大会」** ５種目のゲームで実際に車を走らせて遊ぶことを通して，自分だけでなく友達の見方も加えて自分や友達の作品を鑑賞し，お互いの表現のよさを称賛し合い味わう。	

■活動例１
「アートボキャブラカードで見る目！広がれ！」
アートボキャブラカードを基に自分の作品について紹介したり，友達の作品を見たりすることで，新しい視点を増やして鑑賞する活動。

■活動例２
「えらんで！とって！こだわりアピール」
自分の作品のよさが伝わる場所を選び，設置して撮影をした写真や画像を，作者はなぜそこに設置したのかを考えながら見たり，作者はそこに設置した理由を表現のこだわりとつなげて紹介したりする活動。

また，題材終末鑑賞活動は，表３の「ウインドカーでチャレンジ大会」の学習内容の他にも，題材によっては，活動例１・２のような鑑賞活動も設定できると考えた。これらの活動を子どもの実態や題材に合わせて，組み合わせて設定できることが考えられる。

(2) 造形意欲を高める鑑賞活動の指導方法

意欲的に自己の表現を追求する子どもの姿を表出するための鑑賞活動の学習内容が確実に定着できるように指導方法を準備する。そこで，表4のような鑑賞活動の指導方法の設定の手順により各鑑賞活動の要件を設定した。

【表4　鑑賞活動の指導方法の要件設定の手順と要件】

① これまでの指導方法
〔学習過程・学習活動〕 学ぶ意欲が連続性を持つように，学習内容を設定して学習過程を構造化する。
〔学習形態〕 学習形態は，子どもの思いや表現活動に応じてより意欲的に表現を進めることができるように，**一斉学習**，**グループ（小集団）学習**，**個別学習**を組み合わせる。
〔学習の場〕 学習の場は，意欲的に表現を進めることができるように，物的設備や学習の環境づくりを行う。
〔教師の具体的な働きかけ〕 教師の具体的な働きかけは，子どもの表現の実態を的確に把握しながら，自ら意欲的に表現していけるように，参考作品，教師の例示，発問・助言・称賛，子どもの反応の取り上げ方等を工夫していく。
〔評価方法〕 毎時間の形成的評価を基本として，培いたい力が十分に発揮できるように評価したり，やって気付く鑑賞活動や中間鑑賞活動の適時性を判断したりして指導に生かすようにする。

過程	② 効果的な働きかけの考え方	③ 子どもの姿の想定	鑑賞活動にかかわる働きかけと要件 ④ 姿に応じた働きかけ	指導方法の要件
導入	・これから始まる新しい題材に好奇心が持てるような題材との出合わせ方をする。	・題材に出合った際に自分なりの思いを持ち，強い表現意欲を持てる子ども。 ・見るポイントを把握し，新しい学習内容に気付くことができる子ども。 ・多様で深まりのある発想ができる子ども。	・見るポイントに気付き，表現意欲を持てるような好奇心をかき立てられる参考作品の鑑賞を行う。 ・試行錯誤できる体験的な操作活動に挑戦させる中で発想させるようにする。	○対比 ○感動 ○発見 ○不思議 ○未完成 ○操作性 ○制限 ○適時性 ○遊び性
構想	・表したいものや表し方を決めることができ，表現の方向性が持てるような発想をさせる。	・確実な見通しが持てる子ども。	・多様な発想の方法を紹介し題材の見通しが持て自信が持てるようにする。	○操作性 ○発展性 ○選択性
表現	・つくりたいもののイメージが明らかになるように発問したり参考作品を提示をしたりする。 ・表現課題に気付いたり解決方法を発見したりできるように，発問や参考作品の提示を行う。	・思いと照らし合わせながら自分の表現課題を発見できる子ども。 ・試行錯誤を繰り返しながら，自分が満足できるまで粘り強く表現を追求できる子ども。 ・自分なりの方法で表現ができ，友達と共に磨き合うことで，できた喜びを実感できる子ども。	・一端，立ち止まって自分の表現を振り返り，つくりたいもののイメージが明らかにできたり，表現課題に気付き，解決方法を見出すことができたりする活動を行う。	**〔低学年〕** ○遊び性 ○想像性 ○物語性 ○発見 ○適時性 **〔中・高学年〕** ※低学年に加え ○比較 ○主張性
終末鑑賞	・内発的学習意欲を持って表現を進めることができるように，表現を振り返らせる。 ・見ることは楽しいと思えるように，活動を伴う鑑賞をさせる。 ・自分のこだわりを紹介させ友達と交流させることで，新たな見方や考え方，感じ方を知り，広げていけるような鑑賞をさせる。	・友達の思いに共感しながら，作品の工夫を味わうことができる子ども。 ・見るポイントを生かしながら，自分なりの鑑賞をすることができる子ども。 ・表現の過程を説明でき達成感や今後の課題を認知できる子ども。	・自分が表現課題を乗り越えてきた過程をこだわりとして説明したり，自分が新たにできたことや分かったことを，表現を振り返って自覚したりすることができる鑑賞活動を行う。 ・鑑賞の楽しさに気付き，友達の見方や考え方，感じ方を新たな自分の意味として獲得できる鑑賞活動を行う。	**〔低学年〕** ○同化 ○遊び性 **〔中・高学年〕** ※低学年に加え ○比較 ○主張性

2年目の研究では中間鑑賞活動の適時性が課題となった。そこで，**造形意欲が高まり，意欲的に自ら表現を追求できるように中間鑑賞活動の適時性を子どもの姿から探る**ことにした。

学習内容と同様に3年生「風パワー全開」を例に具体的な指導方法を述べる。帆と車輪がついて車の形がほぼできた段階を中間鑑賞活動の適時と授業前に想定し，そのような製作状況を見取ることにした。また，中間鑑賞活動の適時性は，子ども自らの必要感があることが前提となるので，図7のように**学習カードに中間鑑賞活動の必要の有無を記入させることで，学級全体の必要性を把握して，適切な時期に活動を位置付ける**ことにした。実際には，学級の中間鑑賞活動の要望は，各場面において表5のような実態であった。全体の80%以上の子どもが要望した実態からもその段階を中間鑑賞活動の適時と判断できた。

【図7　学習カードからの見取り】

【表5　中間鑑賞活動の要望】

（全３９名）

各場面	やる気の平均	中間鑑賞活動の設定の要望人数と割合
導入	３．２	２４名（６１％）
車輪・車体・帆完成	３．４	**３３名（８５％）**
中間鑑賞活動	３．７	３５名（９０％）
修正・飾り付け	３．８	２９名（７４％）
飾り付け	３．７	１８名（４６％）
題材終末鑑賞活動	３．８	

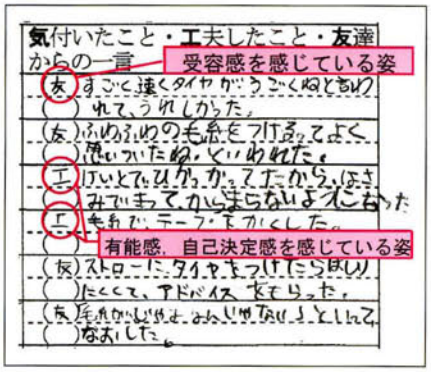
また，各鑑賞活動のその他の指導方法については，前述の指導方法の要件を基に以下のように準備し，適用することになる。

【表6　3年生「風パワー全開」での各鑑賞活動の指導方法】

造形意欲の基になる感覚　　意欲的に表現・鑑賞する姿

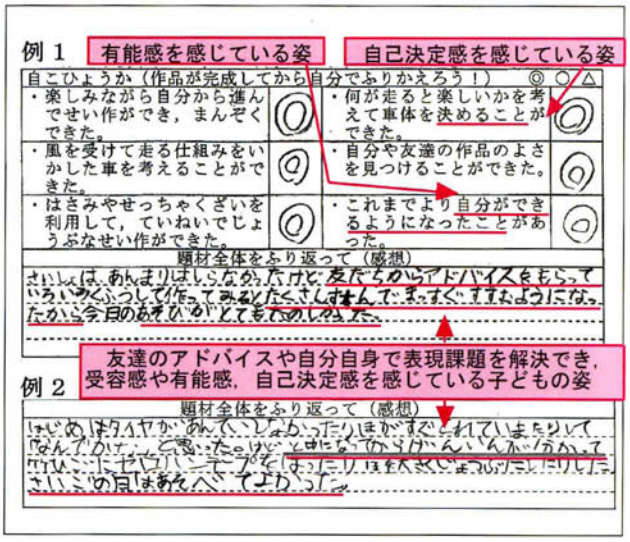
過程	子どもの姿	造形意欲の重点化	各鑑賞活動の指導方法	
導入	面白そうだな。走らせてみたいな。 車輪のつくり方が分かったぞ。自分の車をつくるぞ。	自分のつくりたいものを自分で決めることができたという 自己決定感	**【見て気付く鑑賞活動】** **要件：感動，対比，未完成，操作性** ○参考作品①…完成作品 ○参考作品②…3タイプの車（車輪が動かない車，帆がない車，よく走る車） ○場の設定…自由に試走させることができるように廊下に設定する。 **【やって気付く鑑賞活動】** **要件：対比，発見，遊び性，操作性，適時性** ○場の設定…自由に試走させることができるように廊下に設定する。 ○グループ…学び合いができるようにする。	
表現	風をしっかり受けるように問題点をしっかり解決してよく走るようになったぞ。	友達のアドバイスをもらいながら，表現課題を見付け，解決方法を発見できたという 有能感　受容感	**【中間鑑賞活動】** **要件：比較，発見，遊び性，適時性** **「弱風1mレース＆ストレート完走挑戦」** ○場の設定…自由に試走させることができるように廊下に設定する。	
終末鑑賞	帆を大きくしたこだわりや車輪の丈夫な接合ができるようになったことを伝えたいな。	友達に表現を認められ，自分はこんなことができるようになったという 有能感　受容感	**【題材終末鑑賞活動】** **要件：比較，遊び性，主張性** **「ウインドカーでチャレンジ大会」** ○場の設定…自由に挑戦したいゲームに挑戦できるように多目的ホールで行う。 また，車を調整できるように用具コーナーを準備しておく。	

これらの指導方法がより効果的に働いて造形意欲を高めるためには，**題材全体を通して各過程で子どもたちが造形意欲の基になる感覚を味わうことができているかが大切となり，教師側がそれを的確に見取るという評価が重要**となる。具体的には，図8のように学習カードを気付いたこと，工夫したこと，友達からの一言について記述するように改善し，そこから造形意欲の基になる感覚を味わっている状況を把握して個別指導を行う。子ども自身もできるようになったことや，決めたことを振り返りながら，次への表現の意欲を高めていくことができる。また，こだわりだけでなく表現そのものを受容してもらえることにより，お互いに認め合う雰囲気の中で表現することができるので，**受容感が十分に味わえるように学び合いの中での相互評価も大切にしていく必要**がある。



【図8　毎時間の自己評価の記入】

これらの**各過程においての毎時間の終末鑑賞での自己評価，相互評価がその過程のみで終わるのではなく，それを積み上げていくことが大切**である。さらに題材終末では，図9のように，それまでの**自己評価，相互評価を客観的に振り返ることで，その題材を学習して自分の意味が新しく増えたことに気付くことができ，題材終末まで造形意欲が高まり，自己の表現を追求できる姿になる**と考える。



【図9　題材終末での自己評価の記入】

図－7

Ⅲ　授業プラン例

6年

すてきな塔の街
～ダンボールを楽しく生かして～

題材の位置

【5年　私は夢の発明家】
○　自分なりの夢のイメージを持つ。
○　設計図に表してイメージをまとめる。
○　厚紙の加工や構成。

→

【6年　すてきな塔の街】
○　自分なりの塔のイメージを持つ。
○　設計図に表してイメージをまとめる。
○　ダンボールの加工や構成。

題材の目標

(1)　素敵な塔を楽しく想像し，自分のつくりたい塔のイメージに向かって，ダンボールの特徴を生かしながら製作する楽しさに気付き，粘り強く塔を製作することができる。

(2) ○　自分のつくりたい塔のテーマを見付け，ダンボールの模様や強度等の特徴を考えた塔の構造やつくり方の手順を計画して，塔のイメージを膨らませながら製作することができる。

○　柱の形や長さ，太さ等つくり方を様々に試みる中で片面ダンボールの模様の生かし方や方向の違いによる強度差等を感じ取り，自分なりの製作の課題を見付けることができる。

(3)　ダンボールの丈夫さ，自由に切ったり折ったり丸めたりできるよさ，波状の模様や凹凸の面白さ等の特徴を生かしたつくり方を，工夫しながら製作することができる。

見るポイント

○　形（構成）
○　模様（美しさ）
○　強度（丈夫さ）
○　思い（の表れ）

準備

〔子ども〕
・接着剤・図工ノート・セロハンテープ（仮留め用）

〔教師〕
・参考作品・ダンボール・片面ダンボール・カッターナイフ・定規・カッターマット・ダンボールカッター・プロジェクター・学習カード

参考作品〔導入〕

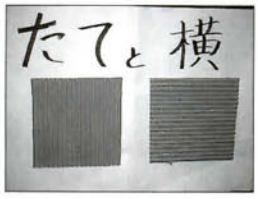
塔の完成した姿を見て，見るポイントに気付き，今後の見通しが持てるようにする。

評価

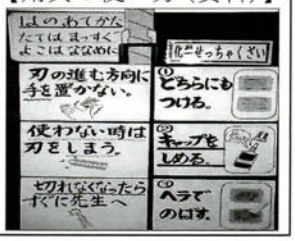
○　ダンボールの特徴を生かしながら，自分がイメージした塔を最後まで製作することができたか。（造形的な関心・造形意欲，態度）
○　自分のつくりたい塔を思い付き，ダンボールの特徴を生かして，構想し，製作することができたか。（つくりだす力）
○　見るポイントを基に自分や友達の作品，参考作品を鑑賞し，自分の課題を見付けることができたか。（感じ取る力）
○　用具を適切に使い，ダンボールの特徴を生かして，丈夫につくることができたか。（造形的な知識・理解，技能）

材料・教具・掲示資料

【片面ダンボール】



【用具の使い方（資料）】



場の設定

4～5人のグループをつくる。やって気付く鑑賞活動や中間鑑賞活動だけではなく，製作中においても，友達との積極的な学び合いが行われるようにする。

板書〔第1時〕

作品紹介

過程	学習内容の構造・学習活動，子どもの姿	時間	教師の働きかけ（**※は指導方法の要件**）
動機付け 着想	1　素敵な塔をつくることについて話し合う。 **見て気付く鑑賞活動①** 参考作品を見て，気付いたことを発表する。 ○　柱がたくさんあるな。 ○　この塔の模様はきれいだな。	1	参考作品　視聴覚教材　発問 完成した塔の参考作品を提示する（**※感動**）ことで，子どもたちは，製作意欲が高まり，学習の見通しを持つ。そこで，プロジェクターで参考作品を拡大して見せる（**※発見**）ことで，参考作品のよさに気付かせ，それを見るポイントにまとめていく。
発想	2　学習のめあてについて話し合う。 ダンボールの特徴を生かして，すてきな塔の街をつくろう。 3　サンプルで試しづくりをする。 **やって気付く鑑賞活動**【2階建ての建物をつくろう！】 試しづくりをして，材料の特徴に気付く。 ○　片面ダンボールって，こんな使い方ができるんだ。		操作活動　発問　掲示資料　学習形態 グループで「2階建ての建物をつくろう（**※制限**）。」と投げかけ，片面ダンボールのサンプルを配ると，子どもたちは，実際に切ったり，曲げたり接着したりする。そこで，試しづくりをしながら体全体で材料とかかわらせる（**※操作性**）ことで，ダンボールの特徴を感じ取ることができるようにする。
構　想	4　構想する。 ○　アイデアスケッチをかいてみよう。 ○　設計図にしてみよう。 **自己評価** つくりたいものが決められたかを自己評価する。【自己決定感】		学習カード　発問 子どもたちは，どんな塔をつくるか構想する。そこで，学習カードを準備し，自分なりの構想の仕方（**※選択性**）で，自分のイメージをまとめていけるようにする。
製　作	5　塔の強度について話し合う。 **見て気付く鑑賞活動②** 参考作品を見て，気付いたことを発表する。 ○　丈夫につくるには，柱の高さをそろえないといけないな。 6　自分の塔をつくる。 (1)　自分のテーマを基に，構想に沿って製作する。 (2)　中間鑑賞活動を行う。 **中間鑑賞活動**【あなたの塔は大丈夫！？強度チェック！】 友達のつくっている塔への思いを聞いたりしながら鑑賞し，表現課題の解決方法を見付ける。 ○　もっと，模様のことを考えてつくると，美しい塔になりそうだ。 (3)　中間鑑賞活動で気付いたことを基に，発想を広げながら塔をつくる。 **自己評価** 友達からの称賛等を受けて，自己評価する。【有能感・受容感】	4	参考作品　視聴覚教材　発問　学習形態 製作前に，題材の価値に十分気付けていない子どもがいると考えられる。そこで，片面ダンボールのサンプルを使って，丈夫につくるには「柱の高さをそろえる」ことに気付かせる（**※発見**）ようにする。 視聴覚機器　発問　学習の場 自分の表現課題に気付かない子どもがいると考えられる。そこで，グループでお互いの作品を紹介し合う場を設定する（**※適時性**）。自分の作品を紹介するときは，自分の作品への思いを交えながら（**※主張性**）紹介し，友達の称賛やアドバイスを聞く。また，見るポイントを基に，友達の作品を見る。これらの活動を通して，自分の表現課題に気付くだけではなく，課題の解決方法についても気付く（**※発見**）ことができる。
鑑　賞 評価	7　一人一人の塔を紹介し，お互いの発想や表現のよさを認め合う。 **題材終末鑑賞活動**【観光ツアー！塔の街】 自分のつくった塔の自慢の部分を紹介し合い，見るポイントに沿って鑑賞する。 ○　自分のイメージしたことが表現できたぞ。 ○　友達の塔もよくできているな。 **題材全体の自己評価** 学習カードで全時間を振り返る。【有能感・受容感】	1	学習の場　教具 題材終末になると，意欲が低下する子どもが出てくる。そこで，次のような鑑賞活動を設定する。まず，アートポキャブラカードを用いて鑑賞し（**※遊び性**），その際に，つくった本人がその作品のよさをアピールして（**※主張性**），お互いにそのよさを認め合えるようにしていく。その後，自分の思いに合った環境に設置した自分の好きな塔の写真を掲示して（**※比較**），友達のよさに気付かせると同時に，自分のよさを再確認したり，新たに気付かせたりする。

図－9

2年　まどをあけたら

題材の位置

【1年 お話のかざり】
○　紙を重ねて切ってつながる形を楽しむ活動
○　紙類をはさみで切断
○　紙類をのりで接着

⇒

【2年　まどをあけたら】
○　カッターナイフを使って，厚みのある紙を切り開く活動

⇒

【2年 おもちゃランドをひらこう】
○　イメージを話し合いながらまとめる活動
○　厚紙，ダンボール箱の加工・構成

題材の目標

(1)　開けた窓から，絵が表れたり変わったりする面白さに興味を持ち，その面白さを生かしながら楽しくつくることができる。

(2) ○　開けた窓に見える絵の様子を楽しく発想し，自分の思いに合わせて色や形に表現することができる。

○　友達とお互いに窓を開いたり閉じたりしながら遊ぶ中で，そのよさに気付き自分の作品に生かすことができる。

(3)　自分の思いに合った窓の形をつくることができるように，カッターナイフの適切な使い方を理解し，安全に扱うことができる。

見るポイント

○　窓の形や大きさ　○　窓の周り
○　様子の分かる絵　○　丁寧さ

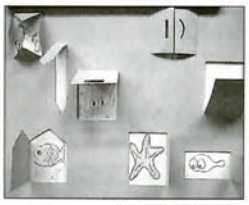
準備

〔子ども〕
・はさみ・色鉛筆

〔教師〕・参考作品・色画用紙・画用紙・カッターナイフ・のり
・カッターマット・定規・ゼムクリップ・プロジェクター

参考作品

【見て気付く鑑賞活動】



【中間鑑賞活動】

参考作品を鑑賞させることで題材の価値に気付かせる。

評価

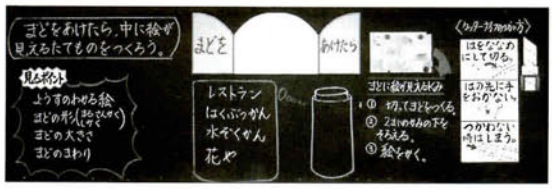
○　絵が表れたり変わったりする面白さに興味を持ち，進んで製作することができたか。（造形的な関心・造形意欲，態度）
○　窓の形や大きさ，その奥に見える絵の様子を楽しく発想し，製作することができたか。（つくりだす力）
○　見るポイントを基に，友達と作品を紹介し合い，お互いの作品のよさに気付くことができたか。（感じ取る力）
○　カッターナイフの適切な使い方を理解し，丁寧に窓をつくることができたか。（造形的な知識・理解，技能）

教具・掲示資料

場の設定

友達の作品を常に見ることができる場を設定するために，4～6人のグループをつくる。中間鑑賞活動等の場以外でも積極的に鑑賞できるようにし，自己の表現に生かせるようにする。

板書計画



作品紹介

過程	学習内容の構造・学習活動，子どもの姿	時間	教師の働きかけ（※は指導方法の要件）
動機付け 着想	1　窓の中に絵が見える作品をつくることについて話し合う。 **見て気付く鑑賞活動** 参考作品を見て，よさや仕組み等気付いたことを発表する。 ○　窓を開くと絵が見えるぞ。 ○　窓の形や大きさはいろいろあるな。	1	参考作品　視聴覚教材　発問 未完成の参考作品を提示する(**※感動，未完成**)ことで子どもたちは，好奇心をかきたてられ製作意欲が高まる。そこで，窓を開いたときに絵が見える面白さを視覚的に捉えやすいようにプロジェクターにその様子を映す。(**※操作性**)その様子から仕組みやつくり方を想像させたり，見るポイントに気付かせたりして，本題材の価値を捉えさせる。
発想 構　想	2　学習のめあてについて話し合う 窓を開けたら，中に絵が見える建物をつくろう。 3　試しに窓づくりをする。 **やって気付く鑑賞活動**　【どんな形もきれるよ】 直線や曲線でできた窓を切り，カッターナイフのよさを理解する。 ○　カッターナイフは，細かい所が切れるな。 ○　２枚の紙の高さを揃えないといけないな。 **自己評価** つくりたい窓の形，大きさ，中の絵を自分で決められたか。【自己決定感】		操作活動　発問　掲示資料 試しにつくることで，子どもたちは，題材の価値を実感しながら，学習の見通しを持つ。そこで，試しに窓をつくり，はさみにはないカッターナイフのよさを，実感させる。(**※適時性**)その際，カッターナイフの使い方について技能面だけでなく安全面についても指導する。(**※操作性**)また，絵がずれないようにするために一つ窓をつくったら絵をかくようにさせる。(**※制限**)絵の高さがそろうことで複数の窓から絵がきちんと見えることに気付かせ，仕組みを理解させる。
製　作	4　建物をつくる。 (1)　窓をつくったり絵をかいたりする。 (2)　中間鑑賞活動を行う。 **中間鑑賞活動**　【窓に見えるのは何かな？】 友達と建物を見せ合いながら，お互いの工夫を紹介し合い，自分の作品への思いを明らかにしたり，中の絵が変わる面白さに気付いたりする。 ○　自分の作品のよさを紹介したいな。 ○　中の筒を回すと絵が変わるようにしよう。 (3)　中間鑑賞活動で気付いたことを基に，発想を広げながら建物をつくる。 **自己評価** 自分ができたことを発表したり友達からの称賛の言葉をもらったりして，より自分の思いに合った作品にする。【有能感・受容感】	4	発問 やって気付く鑑賞活動で学習の見通しを持った子どもたちは，つくりたいものを決めることができる。そこで，挙手させ決められない子どもには，決まった子どもの意見を聞かせたり，机間指導をしたりしてつくりたいものを決めさせる。 参考作品　発問　学習の場 早く作品を紹介したい子どもや新しい工夫に気付かず製作が終わったと感じる子どもがいると考えられる。そこで，窓が最低一つできあがったら(**※適時性**)，教師が完成した参考作品を紹介することで，見るポイントを踏まえた紹介の仕方や新しい工夫に気付けるようにする。そして，全員で中間鑑賞を行う。紹介する時は，自分で紹介したり相手に作品で遊んでもらい(**※遊び性**)感想を言ってもらったりする。このような友達との学び合いの中で，作品に対する自分の思いを明らかにさせる。また，中の筒を回した時にきちんと絵が見える仕組みを見付けた子どもや新たな工夫に気付いた子どもを称賛し，全体に広め，製作意欲を持たせる。
鑑　賞 評価	5　自分の建物を紹介し，お互いの表現のよさを認め合う。 **題材終末鑑賞活動**　【わくわく　開いてのぞいて】 友達の作品の窓を開けたり閉じたりしながら，楽しく遊び，そのよさを発表する。さらに，アートポキャブラカードで作品を紹介し合う。 ○自分の作品のよさを紹介したいな。 ○友達の作品で遊びたいな。 ○カードを使うと今まで気付かなかったことに気付けたぞ。 ○今回の学習で，自分はいろいろなことができるようになったんだな。 **題材全体の自己評価** 学習カードで全時間を振り返る。 【有能感・受容感】	1	学習の場　教具 作品ができあがることで，作品を紹介したいという子どもが出てくる。そこで，見るポイント等を含んだアートポキャブラカードを使って，自分の作品で工夫したところを紹介し合わせ，お互いの作品のよさに気付かせる。そして，友達に遊んでもらい(**※遊び性**)，称賛の言葉をもらうことで，有能感，受容感を味わえるようにする。さらに，自分の作品への思いや工夫をカードに簡潔に書かせ題材全体の活動を振り返らせる。

図－11

Ⅳ　研究の成果と課題

意欲的に自己の表現を追求する図画工作科授業の創造という主題で，１年目に目標，２年目に内容，3年目に方法を中心に研究してきた。本研究の成果と課題は以下のようにまとめることができる。

1　研究の成果

研究の成果は，以下のようになる。

【本年度研究における成果】

○　中間鑑賞活動の適時性を考慮して設定することで，子どもたちが造形意欲を高めながら表現活動を展開する姿を見取ることができた。

○　題材終末鑑賞活動の学習内容を遊び性のある楽しい活動とすることで，子どもたちが活動の楽しさだけでなく，自分の見方，感じ方，考え方を広げて新たな意味を増やしていく姿を見取ることができた。

○　学習過程ごとに造形意欲の基になる感覚の重点化を図ることで，造形意欲を高めて表現する子どもの姿を見取ることができた。

【シリーズ研究における成果】

○　自己の表現のこだわりを友達と交流させながら培いたい力を関連させて造形意欲を高めていくことで，意欲的に自己の表現の追求する子どもたちの姿が表出できることが分かった。

○　学習カードを活用して自分の表現の振り返りや表現のこだわりの伝え合いを繰り返し積み重ねることで，子どもたちが客観的に自己評価や相互評価をすることができるようになった。

2　研究の課題

研究の課題は，以下のようになる。

○　さらに意欲的に自己の表現を追求するためには，「つくりたいものをつくる」の題材で学習したことが，他の領域の題材においても子ども自ら生かすことができるように，領域を超えて発揮される培いたい力を見出していく必要がある。

○　さらに客観的な自己評価ができるように今後も学習カードを継続して活用し，自己の表現のこだわりだけでなく，その題材で学んだ内容の振り返りも十分にできる自己評価，相互評価の在り方を検討する必要がある。

《参考文献》

○文部省　「学習指導要領解説　図画工作科編」　（平成11年）
○桜井茂男著　「学習意欲の心理学　自ら学ぶ子どもを育てる」（2004年　誠信書房）
○北尾倫彦著　「自己教育の心理学」　（1994年　有斐閣選書）
○アメリア・アレナス著「みる　かんがえる　はなす　鑑賞教育へのヒント」
（2001年　淡交社）